平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	基礎学力講座2(国語)(Basic Aptitude Course 2(Japanese))	授業コード	A028751
担当教員名	安田　幸夫、坂井　美穂		
配当学年	1	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	これは選択科目ですが、必修科目に準ずるものとして考えてください。		
受講心得	教科書のほかに小型の国語辞典または電子辞書を毎回持参することをすすめます。授業中に教材(印刷物)が配られることがあるので、遅刻や欠席をしないように注意すること。		
教科書	徳弘康代(監修・著)、飯嶋美知子・山田京子・河住有希子・吉田真佐子(著)『語彙マップで覚える漢字と語彙　中級1500』(Jリサーチ出版)		
参考文献及び指定図書	『三省堂国語辞典　第六版』(三省堂)、江守賢治『漢字筆順ハンドブック　第三版』(三省堂)、朝日新聞出版(編)『日本語きほん帳』(朝日文庫)、朝日新聞出版(編)『らくらくマスター　日本語常識ドリル300問　漢字編』(朝日文庫)。		
関連科目	社会参画入門、社会参画実習1、文章表現基礎講座、英語1・2、情報リテラシー1・2		

授業の目的	基礎的な国語力はあらゆる学習分野で求められる重要な要素です。大学初年度における国語教育は4年間の勉学生活の土台を提供するとともに、卒業後の社会人がもつべき一般常識を養う側面をも有します。「基礎学力講座・国語」は本来は1年次前期の開講科目で、大学での勉学に必要な最低限の国語力の養成を図ることを目的としますが、後期入学の留学生のために特に後期にも開講します。この科目は日本での就職を考える場合には必ず求められるさまざまな種類の国語表現の基礎となり、また、同じく1年次後期に開講される「文章表現基礎講座」(必修)と内容的に深いつながりがあります。
授業の概要	日本語学習の中級(N2/N3レベル)の教科書を用い、「言葉のマップ」によって語彙と漢字との習得を推し進めます。使える語彙を増やし、漢字を数多く覚えるのが日本語学習における重要な課題です。授業では教科書の前半を取り扱い(後半は「文章表現基礎講座」に回します)、1つの課に2回の授業を当てます。教科書本文や練習にさらに解説を付け加えて受講者の理解を高めるとともに、しばしば学生に指名して教科書の日本語文を読ませ、発音やイントネーションの指導を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： オリエンテーション 授業の進め方、出欠の取り方、遅刻・早退の取り扱い、試験の行い方、授業中の発表や提出課題の取り扱い、質問の受け付け方法等について説明し、成績評価の方法にも触れます。	復習:伝達事項を確認する。
第 2 週 ： テーマ別マップ　1　自然(1)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第 3 週 ： テーマ別マップ　1　自然(2)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第 4 週 ： テーマ別マップ　2　一日の生活(1)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第 5 週 ： テーマ別マップ　2　一日の生活(2)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第 6 週 ： テーマ別マップ　3　食べ物(1)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第 7 週 ： テーマ別マップ　3　食べ物(2)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第 8 週 ： テーマ別マップ　4　服・家(1)	

	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第 9 週 : テーマ別マップ　4　服・家(2)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第10週 : テーマ別マップ　5　街・交通(1)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第11週 : テーマ別マップ　5　街・交通(2)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第12週 : テーマ別マップ　6　公共サービス・イベント(1)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第13週 : テーマ別マップ　6　公共サービス・イベント(2)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第14週 : テーマ別マップ　14　反対の動き(1)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第15週 : テーマ別マップ　14　反対の動き(2)	予習:教科書の該当箇所に目を通す。
第16週 : 期末試験 第2+B14週から第15週までの授業内容についての試験を行います。	予習:教科書の既習部分の内容を再度確認する。

授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	日本語能力試験に合格するのに必要な語彙力や漢字力を養うこと。
【知識・理解】	日本語の性格や特徴を知ること。
【技能・表現・コミュニケーション】	日常生活や大学の授業で用いられる日本語がよく理解できること。
【思考・判断・創造】	日本の文化の特性を知ること。B14

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			45点	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	45点			
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	5点			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	5点			

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	
発表・その他（無形成果）	